

忘年会 賛歌・参加・・・！

2019. 12. 15

美幌町図書館長 竹花 史康

師走はいうまでもなく、とても忙しい時期です。また、1年を締めくくる大切な時期でもあります。しかし、自分の人生を顧み見ると、1年間を振り返る時間もないまま新年を迎えてしまうことが多かったような気がします。それでも、“忘年会”だけは毎年忘れずに、「忙しい、忙しい」と、いいながら同僚や親しい友人と楽しい一時を過ごしてきました。

忘年会とは、一般的には年末に催される、その年の苦労を忘れるために執り行われる宴会のことですが、日本独自の風俗でもあります。

忘年会の由来を調べてみると、江戸時代には特権階級の人々の中で一年の憂さを晴らす行事となり、近代の忘年会がお祭りムードに変化したのは明治時代でした。“無礼講”の言葉が広まったのも、その時からのようです。

1年の終わりには、しっかり立ち止まって我が身を振り返ることは重要なことではありますが、1年に1回の忘年会くらいは、「ぱあっ」と騒ぐのもいいものだ、と、歳をとった今でも思います。ただ、若い頃は無礼講と称して、けっこうハメを外しては随分迷惑をかけたこともありました。それを一緒に騒ぎながらも受け止めてくれていた先輩たちを懐かしく思っています。

最近、会社などの忘年会を敬遠する、“#忘年会スルー”という言葉が若い人たちに広まっているようで、ちょっと残念な気がしています。

そんななか、忘年会を飲み会ではなく、ランチや夕食会として行っている企業も増えてきているようです。また、忘年会の参加を促すために補助金を出す会社もあるとのこと。

とにかく、おじさんたちの多くは、時には若い人たちと一緒に楽しく話したいのです。(できれば、一緒に楽しく飲みたいのです。)

